

道路交通法について学べるアプリの制作

近年の法改正により、道路交通法の罰則は一層厳しくなっている。2024年には、自転車のスマホ・酒気帯び運転の罰則の強化や、翌2026年4月から、自転車の青切符などが導入されるなど、これまでは注意で済んでいた違反も取り締まりの対象となりつつある。しかし近年、その法改正や法律への認識が薄れている。筆者は、こうした現代のいわゆる「身近な法律の認知度の低さ」が、交通事故や交通違反の引き金になっていると考えている。このような課題に対して、道路交通法並びに一般的な交通規則についての認知度を効率的に高め、誰もがルールを順守し、安心安全に生活できる街づくりの一助となるツールを開発することで、この課題に対してアプローチしようと考えた。

また、近年ノーコード・ローコードの普及やSEによるAI活用など、開発環境が激化する中で、本ゼミでは限られた演習時間という制約を克服するため、今年度は生成AIの補助を使い、より自分がイメージしたアプリの完成像に近づくことを目標としている。

本研究では、道路交通法について誰もが手軽に楽しく学習でき、一般的な交通規則についての認知度を効率的に高め、誰もがルールを順守し、安心安全に生活できる街づくりの一助となるツールの開発を目的として本クイズアプリを制作し、実際に使用してもらいながらアンケート調査によって本クイズアプリの使用感についての是非を問うた。アンケート調査の回答を踏まえ、本研究における目的は達成されたと考える。

クイズアプリの制作に伴い、補助として使用した生成AIの有用性は非常に高いことが分かった。実際に生成AIを使うことにより、コード入力による時間と手間の削減、アイデア出しの早さ、初心者でも作りやすいといった利点があり、アプリは正常に機能し、結果として生成AIの高い有用性が示された。ただ、データ処理容量の限界や細かい要望を処理しきれないといった問題があった。さらに、生成AIの補助に依存することにより、コード入力時に生じる間違いを自分で解決する力が失われてしまうというリスクがあることが考えられる。生成AIの仕様をよく理解した上で、適切に使用することが今後の研究においてより効果を発揮すると考える。